

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	令和2・3年度	事業者名	活水プラント株式会社
補助事業名	<p>(令和2年度)            駆除水草の炭化処理による水質浄化材と熱源としての再生利用</p> <p>(令和3年度)            駆除水草の炭化処理による水質浄化材・土壌改良材・調湿材としての利用開発</p>		
補助事業結果概要	<p>(令和2年度)            水草の炭化に関して、滋賀県のHPを見て、以前問合せと面談を行った島根県松江市の宍道湖での水草対策担当からはその後連絡はない。また、立命館大学の水草炭化担当から、水草炭化物の現物を渡してからは連絡を受けていない。            海外から、フィリピンで河川の水草対策支援で苦慮していることに関して、現地コンサルを通じて、マニラ市環境課に対して炭化処理の提案は行っている。            なお、熱源としての利用に関して、フィリピン国の科学技術省(DOST)に対して植物バイオマスのエネルギー回収技術移転事業での取組みとして本年度11月末に報告を行う予定である。</p> <p>(令和3年度)            3年前にフィリピン政府開発局からマニラ郊外のパッシング川で繁殖しているホテイアオイを活かした炭化浄化材の問合せ合わせが着て、事業報告と提案を行ったことに対して、採択はされなかった。三重県四日市大学研究機構環境技術研究所と炭化浄化材に対して金属製汚染水の浄化での研究を行うことになり、来年1月より始める。浄化材の効用に関して、農業用水以外での適用化を目指す。</p>		
<p>本年度（令和6年度）の状況</p> <p>・技術開発等の状況を含む</p>	<p>(令和2年度)            前年と同様、水草炭化処理による熱源についてはカロリーを上げる炭化技術を引き続き炭化装置の改良をしながら技術開発の検討を行っている。</p> <p>(令和3年度)            前年と同様開発した水質浄化材・土壌改良材は継続して実証実験を行い、来年度には三重県四日市大学研究機構環境技術研究所との技術開発の検討を行う。</p>		

備考	
----	--